

地域政党のリクルートメント

—— 京都党と京都維新の会を例として ——

芦 立 秀 朗

はじめに

2019年4月7日の統一地方選前半戦で実施された京都市議選には、30人の新人が立候補し、10人が当選している。定数67の約15%に当たる。そうした新人を各党はどの様にリクルートするのであろうか。公明党や共産党の様に「内部候補者を育成する政党」(吉野・今村・谷藤 2001, 238)は少ない⁽¹⁾。内部で育成出来ない場合は、身近な人物に白羽の矢を立てるか公募を行うことになる。前者に含まれる類型として、「例えば秘書として長い時間をかけて当人と向き合い公認をする場合は、十分な身辺調査もできているであろうし、人間もよくわかって太鼓判を押せるのだらう」(村山 2013, 151)。実際に旧民主党の場合、結党の経緯から初期の市議は吉田・木村・佐藤(2007, 51)が指摘する通り旧社会党系市議と旧民社党系市議であったが⁽²⁾、徐々に地元選出の国会議員秘書経験者が立候補するようになる。国民民主党候補の左京区の隠塚功、東山区の中野洋一、山科区の小島信太郎のいずれも前原誠司衆議院議員事務所での秘書経験を有している⁽³⁾。また、北区から立候補し市政に復帰した立憲民主党の片桐直哉も民主党の北神圭朗衆議院議員事務所での秘書を経て2011年に初当選している。

人材の発掘は地域政党の様な新興勢力の場合、既存の政党以上の困難が伴う。地域政党・京都党の政策顧問を務める溝部英章京都産業大学教授は「京都党は若い。そこが良いところです。議員として当選を重ねていくと、市政の現状になじんでいきます。京都党にはそれが無い。変革への熱い思いに期待しています。」⁽⁴⁾と応援メッセージを送る。確かに京都党自体が

2010年結党と若いのみならず、候補者も若い人々が多い。2019年の市議選には7人が立っているが、41歳の村山祥栄代表以外は全員が20代・30代である。そのことを反映し、候補者の平均年齢は34.6歳と市会に議席を持つ政党で最も若い。次に若い京都維新の会⁽⁵⁾の39.8歳とも5歳余り差がある。逆に平均年齢が最も高いのは共産党で55.5歳であり、公明党の54.9歳、自民党の52歳と続く。

では、そうした若い人々はどのような経緯で公認候補となるのであろうか。本稿では京都党に注目し、京都党が市議選に擁立した候補者の経歴や出馬理由を政党の公表情報等から検証し、同じく京都の政界では若い京都維新の会の擁立の仕方と比較しながら、リクルートメントの類似点・相違点について分析していく。

註

- (1) 公明党の人選について、辻(2019, 71)は、元々「『出たい人より出したい人』という考え方があり、地方議員は党の県本部役員、国会は党本部役員がそれぞれ、候補を人選しているようだ」と説明する。
- (2) 2019年の市議選で9選を逃した左京区の鈴木正穂(国民民主党)も8選を果たした伏見区の安井勉(立憲民主党)も元々社会党の市議であった。
- (3) 左京区に立憲民主党公認で立候補した島内研も元々は前原の秘書であった。
- (4) <http://www.kyoto-party.com/cooperation/> (2019年9月8日閲覧)
- (5) 京都維新の会は、大阪維新の会と同様に地域政党としての性格と日本維新の会・京都府総支部としての性格を有する。そのため、京都維新の会の候補は日本維新の会の候補として報道されることが多い。本稿では国政政党を示す場合や引用を除き「京都維新の会」で統一する。

1. 政党とリクルートメント

2011年の統一地方選では、地域政党が注目され(白鳥 2013)、2019年の選挙でも大阪維新の会の勢いの強さが報じられた。2019年の大阪府議選では過半数を獲得し、大阪市議選でも40名が当選し第一党の座を維持した。一般的に、地域政党の様な「新興勢力は人材がいらないため、候補者

公募が中心にならざるを得ない〔。そして公募の場合、人物を見極める時間が限られるために〕空白選挙区を作るのを覚悟の上で間違いのない人材だけを擁立するか、不戦敗を避けるために〔…〕無理をしてでも擁立するか、どちらかを選ぶことになる〕（村山 2013, 151-152）。

京都党の代表を務める村山は、同じく地域政党でも大阪維新の会が後者の形で選定を行い京都党は前者であるために、京都党はなかなか議会でのイニシアティブを取れないとする（村山 2013, 152）。確かに京都党は定数67を11選挙区から選ぶ京都市議会議員選挙で2019年には前回と同じ5名しか当選していない。2019年の統一選では、公募対象とした北区・山科区・伏見区で公認候補を擁立しなかったこともあり、候補者数自体、2015年の10名から7名と減らしている。

国政における候補者のリクルートメントに注目する吉野・今村・谷藤（2001）は「二一世紀を担う政治家を生み出すために」と題するむすびで、政党と政治家に提言を行っている。それらは地方議会へのリクルートメントを考える上でも示唆に富む。「政党は人材の育成・登用のシステムを確立し、それを継続的に運用すべきである」（吉野・今村・谷藤 2001, 238）し、「政治家志望者は、政治家としての目的を実現するための方法を考えるべきである」（吉野・今村・谷藤 2001, 236）とする。具体的には「政党は、市区町村議会、都道府県議会、衆参両院の各選挙レベルごとに、たとえば二年に一度、候補志願者を公募し、面接などの後、一定数を合格者としてリストに記載し、これら合格者に春夏二回、セミナーで集中講習を受け、一定期間、党本部の活動や選挙運動に参加することなどを義務づける」という仕組みである（吉野・今村・谷藤 2001, 238）。政党の政治塾を活用した人材発掘の増加を予期させる記述であるが、新興勢力もこうした方法に移行しているのであろうか。

2. 京都党の概要

2. 1. 結党の経緯

京都党は2010年8月に当時、前市議の村山祥栄を中心に結党された。村山は「2003年の市議選に無所属で立候補し、25歳2カ月で当選〔し、〕2期目の途中の08年に京都市長選に立候補し、落選⁽⁶⁾」していた。「京都のことは京都市民の手で」をスローガンとする京都党の基本政策は、議員定数の削減などの「本来の二元代表制実現に向けた議会改革」、起債ゼロ都市の実現などの「無借金経営都市の実現」、海外観光客一千万人構想の実現をはじめとする「自立した京都経済圏の確立」等である（村山 2013）。

「地域政党『大阪維新の会』について、『地域政党の共通課題はある。連携の可能性はある⁽⁷⁾』と結党に際して村山は話している。実際に、後述の通り実現はしなかったものの2016年の京都市長選に際しては京都維新の会と統一候補を擁立しようという動きがあった。また、2011年6月には「地域政党いわて」と連携協定を結んで⁽⁸⁾いる。

結党メンバー（常任幹事）は、左京区担当の村山祥栄代表、中京区担当の佐々木隆史、南区担当の中島拓哉、右京区担当の江村理紗、伏見区担当の松永卓也の5名であった（村山 2013, 219）。また、最高顧問に株式会社堀場製作所最高顧問の堀場雅夫を、顧問に渡文株式会社・代表取締役社長の渡邊隆夫と元京都市副市長の高木壽一を、政策顧問に京都産業大学法学部教授の溝部英章らを迎えている（村山 2013, 219）。

2. 2. 議会での姿勢：京都維新の会との関係を中心に

京都党は基本的に市会では野党でも与党でもない是々非々の立場をとっている。実際に2012年の京都市長選でも候補擁立を見送るとともに、中立の立場をとった。記者会見で村山は「『議会の中で立ち位置をつくることに専念したい』と〔し、〕『市長選には原則関与しない』とも述べ⁽⁹⁾〔た〕」。

2016年の京都市長選に先立ち京都党は村山代表の擁立を模索し、京都維新の会は「政策に共通点が多い京都党の擁立の動きに相乗り⁽¹⁰⁾」しようと

したが、最終的に京都党支援者の反対を受けて、村山は立候補を断念した。この時に京都維新の会が京都党と統一候補を擁立しようとした背景にあるのは、2016年の参院選で維新の候補を立てて、京都党の支援を得たいという思惑があったからだと言われている⁽¹¹⁾。最終的に2013年と異なり2016年参院選では維新は候補擁立ができなかった。

確かに、維新支持層の投票行動からは両党の距離の近さを伺える。京都市選挙管理委員会編（2016, 139）によると、2015年の市議選において維新の党支持者38人の内、8人が京都党の市議候補に票を投じている。これは維新の党支持者の21.1%に当たる。維新の党の候補者に投票した維新の党支持者は10人（26.3%）であった。京都維新の会の候補者は単独推薦を含めて全11選挙区中半分の6選挙区6人に過ぎないことを踏まえると、京都維新の会の候補者がいない選挙区で維新の党の支持者が京都党に投票した可能性⁽¹²⁾がある。

2020年の京都市長選挙では、京都維新の会が先に動くこととなる。独自候補の擁立を目指して公募を行うことを発表した。「『非共産対共産』の構図で党派が争うのではなく、政策論争を重視する選挙にしたいという」ことである⁽¹³⁾。

2. 3. 党勢の推移

京都党は2011年、2015年、2019年の市議選に公認候補を擁立し、当選者を出している。その間の全候補者と得票が以下の表1である。2015年には府議選にも5名を擁立しているが、当選者を出していない。府議選で候補者を出したのはこの時のみであるため、3回候補者擁立を行っている市議選に本稿は注目する。

2011年の京都市議選では結党メンバーが担当行政区から立候補したほか、その他の選挙区では公募を実施し、最終的に8名の候補者を擁立した。この時には4名が当選しているが、当選者はいずれも結党メンバーであった。2015年には10名を擁立して5名当選し、交渉会派の地位を得たが、2016年市長選を巡る党への不満から下京区選出の山集（やまず）麻衣子市議が

離党し、交渉会派の座を失った。⁽¹⁴⁾ 山集は2019年の市議選に無所属で立候補し再選を果たしている。山集は2019年9月現在市会で唯一どの会派にも所属していない。2019年の統一選では、公募対象とした北区・山科区・伏見区⁽¹⁵⁾で公認候補を擁立しなかったこともあり、候補者を7名と減らしたが当選者は5名と選挙前に比べて1議席増となった。

表1：2011年、2015年、2019年の京都党公認候補（全員）の票数・当落等（京都市議選）

選挙区	候補者名	2011年	2015年	2019年
北区	村山征希	4175	3743	
上京区	森かれん		4227	4999
左京区	村山祥栄	12529	7130	7093
	疋田大		1829	
中京区	佐々木隆吏	7119	*(6913)	
	大津裕太		5740	4436
東山区				
山科区				
下京区	山集麻衣子	4031	4326	** (3621)
	神谷修平			4009
南区	中島拓哉	4073	2946	
	田中美保			2413
右京区	江村理紗	7863	5474	8196
西京区	上野文男	3693		
	山田英孝		3017	
	河野友佳			3731
伏見区	松永卓也	3424	3483	
当選者／候補者		4／8	5／10	5／7
公認候補の票数合計		46907	41915	34877
候補者一人当たり		5863.375	4191.5	4982.429

*：府議選京都市中京区選挙区での得票 **：無所属で立候補
 囲み線のある候補者は結党メンバー（常任幹事）。斜字体は、当選者の得票を表す。
 出展：村山（2013）、『朝日新聞』より筆者作成。

註

- (6) 『朝日新聞』2010年8月31日、京都 23頁。この選挙で、村山は地元の左京区において、当選した門川大作候補に3000票余りの差をつけてトップの得票をしている。
- (7) 同上

- (8) http://www.kyoto-party.com/report/2011_06/20110615blog.html (2019年8月31日閲覧)
- (9) 『朝日新聞』2011年12月9日、京都27頁。
- (10) 『朝日新聞』2015年12月26日、京都25頁。
- (11) 同上。
- (12) もちろん、競合区で維新の党支持者が京都維新の会の候補に入れずに京都党の候補を応援したというシナリオもあり得る。全ての選挙区に候補者を擁立した自民党、共産党の支持者の場合、京都党に投票した有権者の割合はそれぞれ8.4%、2.0%である。また、府議選の京都市内の選挙区についても同様の傾向が見られ、維新の党支持者の13.5% (= 5人 / 37人) が京都党の府議選候補に投票したと回答している (京都市選挙管理委員会編 2016, 166)。
- (13) 『朝日新聞』2019年8月1日、京都21頁。これ以降、先述の村山の立候補表明等様々な動きがあるが本稿では省略する。
- (14) 『朝日新聞』2016年1月19日、京都29頁。
- (15) http://www.kyoto-party.com/report/2018_11/post_14.html (2019年8月31日閲覧)

3. 京都党のリクルートメント

3. 1. 結党直後：既に政治経験がある人物や村山市議とのつながりのある人物

中京区から立候補した結党メンバーの佐々木隆吏は、立命館大学アジア太平洋大学を第1期生として卒業した後、「先進自治体や神戸市議井坂信彦インターンを経験⁽¹⁶⁾」している。2007年京都市議選に佐々木は無所属で立候補し66票差で落選している。京都トヨベットを退職した後、2010年の京都党結党に参加し、2011年の京都市議選に京都党公認候補として立候補、初当選している。2015年統一地方選では府議選に鞍替え出馬しているが、落選した。

2011年に西京区から立候補した上野文男は「十数年間、自民党京都府青年局の青年党員として様々な政党活動に従事して⁽¹⁷⁾」きたが、2005年の郵政解散以降、自民党の党運営に疑問を抱き、自民党を離党して京都党の立ち上げに参加した。京都党を選んだ理由として市会における既成政党へ

の不信感を挙げている。2011年の市議選で落選しているが、西京区では上野以降、毎回異なる公認候補が京都党から立っている。

伏見区の松永卓也は結党時点でも現在も学習塾高志塾・塾頭であるが、この塾は2009年に村山が開設した。後に村山は名誉塾頭となっている。

右京区の江村理紗は同志社大学政策学部1期生であり、大学卒業後にミスミに入社したが、退職して市議選に挑戦し、2011年の初当選以来3期務めている⁽¹⁸⁾。『週刊朝日』のインタビューによれば、江村は「高校生のころから政治に関心があり、大学時代は村山祥栄・京都市議の事務所でインターンをして⁽¹⁹⁾」いた。江村は、社会に出た後に、「村山市議から『新党を立ち上げたいから出馬してほしい』と打診を受け⁽²⁰⁾」た。

南区の中島拓哉は江村と同窓であるが、シンプレクス・テクノロジーに就職し「充実した社会人生活を送るも、経済の限界を感じる中、前京都市議の村山祥栄⁽²¹⁾」と出会う。村山の「京都市政のために情熱を注ぐ姿に感銘を受け〔、〕地域政党京都党の構想に賛同し、結党に参画⁽²²⁾」した。2011年の市議選で初当選を果たすも、2015年には落選している。

2011年と2015年に北区選挙区で立候補した村山征希は村山代表の弟である。大学一回生の時に村山祥栄の「選挙活動を手伝ったことがきっかけで政治家を志した」と学生団体の企画「若手政治家と話そう！」の中で明らかにしている⁽²³⁾。2010年の決意表明では公募により公認となった旨を説明している⁽²⁴⁾。

以上から明らかになるのは、候補者となっている人物の多くが京都党以外で既に政治経験がある人物や、インターンシップや選挙活動などを含めて村山市議とのつながりのある人物であるということである。2011年には上京区、山科区、東山区では候補者を擁立していないが、「不戦敗を避けるために〔太鼓判を押せない人物を〕無理をしてでも擁立する」ことをしないのが京都党という村山（2013, 152）の説明とも整合性がある。

3. 2. 2015年市議選・2019年市議選：リクルートメントの変化と継続

2015年以降の市議選でも確かに初期と同じような形でのリクルートメ

ントは見られる。2015年の京都市議選に左京区選挙区から京都党の二人目の候補として立候補した疋田大は、京都市左京区出身であるが、明治大学経営学部に在学中より、自民党衆議院議員の萩生田光一事務所で政治に触れている。出馬に際しての応援メッセージで村山は「[疋田]は学生時代から将来必ず左京区で出馬すると私に挨拶に来てくれ⁽²⁵⁾」たと述べており、村山との個人的なつながりも深かったことが窺える。

2019年に西京区から立候補した河野友佳の場合、「大学2回生の時に政治の世界を知りたいと思い、友人の紹介でNPO団体が募集していた議員インターンシップに参加し[、] 当時は無所属で活動していた村山祥栄京都市議のもとで政治を学⁽²⁶⁾」んだとのことである。村山事務所では、「市議会選挙と市長選挙の二度の選挙にスタッフとして参加し、議員と共に街頭に立ち、選挙カーに乗り、マイクを握って選挙区を回り政策を訴え⁽²⁷⁾」た経験を有する。

こうした結党直後と共通するリクルートメントの方法に加えて、政治塾を通じたリクルートメントも見られる。大阪維新の会の維新政治塾が始まった翌年2013年3月～12月に「京都党村山祥栄政治塾」の第一期が開講されて、塾生19名、聴講生35名の計54名が学んだ⁽²⁸⁾。更に2017年には第二期が開講されている。

上京区の森かれんは同志社大学を卒業後、最高顧問の堀場雅夫が京都党の最高顧問でもある堀場製作所に入社したが、一年間村山祥栄政治塾に参加している。2014年9月23日に開催された同志社大学政策学部10周年記念式典では、野間敏克教授、野間ゼミ1期生の江村市議や中島元市議（当時は現職）との写真を撮影し、ホームページのプロフィール欄に掲載している⁽²⁹⁾。

中京区の天津裕太は、京都大学卒業後、リクルート社や税理士法人での勤務を経て、「思い入れのある京都の地域活性に加え、地方分権や財政再建に積極的な京都党の村山議員と出会い、『子供世代・孫世代の京都』を良い街にしたいと一念発起し、政治活動を開始⁽³⁰⁾」したとのことである。村山祥栄政治塾に入塾した直後の2013年の京都市会議員補欠選挙（中京区）

に京都党の候補として立候補した⁽³¹⁾。この時点で既に中京区には佐々木隆吏が現職市議として在職していたが、5人以上の交渉会派となることも目指した京都党が大阪の擁立を決定した。大阪はこの時は落選したものの、佐々木が府議選に鞍替えした2015年の市議選で初当選、2019年に再選している。

下京区の神谷修平は、2009年に関西学院大学文学部を卒業した後、文化財保存修復士として京都で働いてきた。2019年の統一地方選を見据えて、2017年6月から京都党の政治塾に参加してきた。日本の文化財保護の課題を解決することを目指し、「若手現役市議 [の] 先輩の言葉に背中を押され⁽³²⁾」、2019年京都市議選に下京区から京都党公認で立候補、初当選を果たしている。

この様に、京都党の新人候補の中には京都党の政治塾を修了して選挙に出るといふ、キャリアパスが登場し始めている。

註

- (16) 『佐々木たかし新聞 23号』（2015年4月1日付けで佐々木本人がFacebookに掲載したものを、2019年8月31日に閲覧）。文中の井坂信彦は2012年の衆院選でみんなの党公認で衆議院議員に初当選した人物である。
- (17) http://www.kyoto-party.com/report/2010_10/20101015_movie_ueno.html (2019年8月31日閲覧)
- (18) <http://えむりさ.jp/profile/> (2019年8月30日閲覧)
- (19) 『週刊朝日』2017年12月1日、97頁。
- (20) 同上
- (21) <http://nakajimatakuya.com/about/> (2019年8月30日閲覧)
- (22) 同上
- (23) <https://ameblo.jp/mahoroba-kyoto/entry-11993803155.html> (2019年8月30日閲覧)。2015年に西京区から出た山田英孝は立命館大学産業社会学部の卒業生であるが、同じ企画の中で、「学生時代の政治家事務所インターンがきっかけ [となり、] 20歳から政治家を目指」したと述べている。
- (24) http://www.kyoto-party.com/report/2010_10/20101015_movie_seiki.html (2019年8月31日閲覧)
- (25) 『ひきだだい政策通信 討議資料 vol.1』2014/11
- (26) <https://kounoyuka.com/profile> (2019年8月31日閲覧)

- (27) 同上
- (28) http://www.kyoto-party.com/report/2013_12/post_13.html (2019年9月14日閲覧)
- (29) <http://www.morikaren.com/profile/> (2019年8月30日閲覧)
- (30) <https://www.otsuyuta.com/profile/> (2019年9月19日閲覧)
- (31) http://www.kyoto-party.com/report/2013_04/20130423_movie_yuta.html (2019年8月31日閲覧)
- (32) 『週刊朝日』2017年12月1日、97頁。

4. 京都維新の会のリクルートメント

4. 1. 京都維新の会の概要

「京都維新の会」は、2012年10月に当時の自民党京都府議の田坂幾太が設立した政治団体である。同月に日本維新の会と連携協定を結んでいる。⁽³³⁾ 田坂は2013年6月に設立された日本維新の会の総支部代表代行に就任している。⁽³⁴⁾ 維新の会の解党および国政政党「おおさか維新の会」の結党を受けて、維新の党京都府総支部の田坂幾太代表が地域政党として「京都維新の会」を立ち上げた。⁽³⁵⁾ 2018年1月には田坂に代わり衆議院議員の森夏枝が代表に就任している。⁽³⁶⁾

京都維新の会は2015年と2019年の京都市議選で候補者を擁立しているが、京都党と競合する選挙区も存在し、京都維新の会は京都党の5議席を下回った(表2参照)。その間の京都維新の会の公認候補全員の得票は表3の通りであるが、京都市議選で2011年に他党の公認候補であった人物を京都維新の会が擁立しているのが特徴的である。

表2：2011年・2015年・2019年の京都市議会議員選挙における京都党・京都維新の会の獲得票数と当選者数・候補者数

	2011年		2015年		2019年	
京都党	46,907票	4人(8人)	41,915票	5人(10人)	34,877票	5人(7人)
京都維新の会	—	—	21,636票	4人(5人)	24,690票	4人(6人)

出典：芦立(2012)、芦立(2016)、『朝日新聞』より筆者作成。

表3：2015年、2019年の京都維新の会公認候補（全員）の票数・当落等（京都市議選）

選挙区	候補者	2011年	2015年	2019年
北区	菅谷浩平	—	3816	3931
左京区	宇佐美賢一	2511 みんな	4179	4204
中京区	松田隆年	2874 民主	3865	—
	沢田長利	—	** (5679)	2338
山科区	豊田貴志	*(10680 民主)	4641	—
南区	中村美貴	—	—	2110
右京区	胡内大輔	—	5135	4502
伏見区	久保田正紀	—	—	7605
当選者／候補者		—	4 / 5	4 / 6
公認候補の票数合計		—	21636	24690
候補者一人当たり (市議・公認)		—	4327.2	4115

*：府議選京都市山科区選挙区での得票 **：府議選京都市下京区選挙区での得票
 斜字体は、当選者の得票を表す。2011年に他党の公認候補だった人物については、得票の
 後ろに公認を得た政党名を記載している。

出典：『朝日新聞』より筆者作成。

4. 2. 両党の類似点と相違点

2011年の大阪府議選・大阪市議選の前の時点で、大阪維新の会は府議会
 で29、市議会⁽³⁷⁾で13議席を有していた。その多くは2007年統一選では
 自民党公認で当選した議員であった。その後は、2012年に始まった大阪
 維新の会の維新政治塾が候補者の供給源となっていく。第一期生（2012年）
 9人、第二期生（2014年）2人、第三期生（2016年）2人、第四期生（2018
 年）⁽³⁸⁾2人が大阪市議会議員となっている。

京都市の場合も、数は少ないながらも大阪維新の会の維新政治塾を経て
 の立候補が見られるようになる。左京区の宇佐美賢一は1994年に京都大
 学法学部を卒業し、三菱重工業での勤務等を経て、⁽³⁹⁾2011年にみんなの党
 から市議選に立候補し、この時は落選している。2012年に始まった維新
 政治塾の第一期生⁽⁴⁰⁾となり、2015年の市議選で初当選を果たしている。西
 京区の森川央は2011年の初当選以来、無所属で選挙を戦っているので、
 表に掲載していないが、2012年に第一期生として維新政治塾で学んでおり、
 2019年の市議選後に日本維新の会に入党している。

政治塾出身者に加えて、秘書を経ての立候補というパターンも見受けられる。右京区の胡内大輔は、京都市内の中学校、高等学校を卒業し、京都市内飲食業、同市内ホテル業、大阪市内広告業で勤務をしている。2014年に党支部長の秘書となり、2015年の京都市議会議員選挙に立候補・初当選⁽⁴¹⁾し、2019年に再選を果たしている。2019年に伏見区から立候補・初当選した久保田正紀は元・リクルート社員、元・楽天社員であるが、衆議院議員公設秘書の経歴も有する⁽⁴²⁾。秘書経験があるという点で胡内と同じである。

政治経験がないという点では、北区の菅谷浩平は異色である。菅谷は京都府京丹後市網野町出身で、明治大学卒業後、大和証券京都支店で営業職として勤務している。「自身の成長を求めて退社後、単身カナダへと渡[り、]一年半の海外留学を終えて帰国後、28歳で市議選に立候補し、初当選を果た⁽⁴³⁾」している。「わたし自身に政治経験はありませんでしたが、自分が議員になって、真面目に社会のために働いてみたいと真剣に思うようになりました。同時に橋下徹氏が率いていた大阪維新の会の考えに共感し、維新の政治家として28歳のときに選挙戦に挑戦をしました⁽⁴⁴⁾」と決意を述べている。

京都党も京都維新の会も、政治塾でのリクルートメントを重視してきている点では、共通である。但し、京都維新の会は旧民主党やみんなの党で既に立候補経験や議員経験がある人物を候補者として擁立する傾向が見られる。例えば、先述の通り、左京区の宇佐美は2011年にはみんなの党から立候補している。

また、かつての府議・府議候補を市議選に擁立するといった鞍替えや国替えが見られるのも京都党との違いである。旧民主党の府議から京都維新の会の市議に鞍替えした山科区の豊田に加えて、中京区の沢田長利が分かりやすい例である。経営コンサルタント会社長・日本維新の会市政対策委員だった中京区の沢田は、2013年7月の市会中京区選挙区補欠選挙に党公認⁽⁴⁵⁾で立候補、落選している。2013年10月4日日本維新の会府総支部は、沢田が幹事となることを発表⁽⁴⁶⁾した。2015年の統一地方選では市議選でな

く府議選に、中京区と隣接する下京区から立候補し二人の現職議員に敗れている。2019年には中京区に戻り党公認で市議選を戦ったが落選している。

こうした傾向は京都府議選に関しても当てはまる。2015年選挙に府会議員選挙で落選した京都維新の会の候補者9人の内、3人が2019年に当該選挙区あるいは近隣選挙区に含まれる地方議会の選挙に立候補し当選しているのである。特に木津川市議会議員に当選した兎本尚之（木津川市・相楽郡選挙区）以外の二人（八幡市選挙区の山口克浩と宇治市・久世郡選挙区の秋月健輔）は、京都維新の会の公認で当選している⁽⁴⁷⁾。そもそも、兎本も八幡市の山口もみんなの党や無所属の議員であったのを辞職して、2015年府議選に京都維新の会の候補として臨んでいた。

註

- (33) 『朝日新聞』2012年10月25日、大阪35頁。
- (34) 『朝日新聞』2013年6月8日、京都23頁。
- (35) 『朝日新聞』2015年11月6日、京都29頁。
- (36) 『朝日新聞』2018年1月23日、京都29頁。
- (37) 『朝日新聞』2011年4月11日、1面。
- (38) <https://oneosaka.jp/seijijuku/>（2019年9月14日閲覧）
- (39) 『宇佐美けんいち市会だより』R元年8月号による。
- (40) <https://oneosaka.jp/seijijuku/>（2019年9月14日閲覧）。同期には元党本部職員で、現在、京都維新の会の代表の森夏枝衆議院議員がいる。
- (41) 以上の経歴は<http://kouchi.jp/profile.html>（2019年8月30日閲覧）を基にしている。
- (42) https://o-ishin.jp/member/detail/kubota_masaki.html（2019年9月23日閲覧）
- (43) <https://www.sugayakohei.com/>（2019年8月30日閲覧）
- (44) 同上
- (45) この補欠選挙は参院選と同時に実施されたが、参院選では二人区の京都府選挙区に日本維新の会の公認候補である山内成介が立候補し、164,825票を得て次次点となっている。
- (46) 『朝日新聞』2013年10月5日、京都29頁。
- (47) 2019年の統一選後半戦で、山口は八幡市議会議員選挙に、秋月については隣接する京田辺市・綴喜郡選挙区内の京田辺市議会議員選挙に立候補・

当選している。

まとめ

本稿では京都市会における新興勢力である京都党と京都維新の会に注目し、候補者のリクルートメントを比較した。吉野・今村・谷藤（2001）の示唆する通り、政治塾を用いた政党のリクルートメントを活用している点は共通であるが、立候補したことや議員の経験のない人物をリクルートするという点が京都党の特徴である。国替えや鞍替えもほとんど見られないことも京都維新の会との違いである。

本稿は立候補に至る前段階に注目した。しかしながら、「ストックである在職議員の特性は、フローの両面である入場と退場の双方によって規定される」（福元 2004, 101）ので、落選や立候補の見送りなどによる「退場」の分析が次の課題となる。冒頭の溝部の応援文にもある通り、「議員として当選を重ねていくと、市政の現状になじんでいきます」ということが京都党の議員にも当てはまるとすれば、いずれ現職議員が多選を理由に立候補を辞退するあるいは辞退せざるを得ないということになるのか。学術的のみならず京都市の一有権者としても大いに関心を持つところである。

文献一覧

芦立秀朗(2012)「京都市における意思決定——非日常的決定の典型と逸脱——」

『産大法学』第45巻第3・4号, pp. 461-486.

芦立秀朗(2016)「地方議会改革と議会基本条例：自治基本条例との関係から」『京都産業大学 世界問題研究所紀要』第31巻, pp. 141-154.

京都市選挙管理委員会編(2016)『京都市民の投票行動——京都市議会議員一般選挙(平成27年4月12日執行)を素材として——』京都：京都市選挙管理委員会

白鳥浩編著(2013)『統一地方選挙の政治学：2011年東日本大震災と地域政党の挑戦』京都：ミネルヴァ書房

辻陽(2019)『日本の地方議会：都市のジレンマ、消滅危機の町村』東京：中央公論新社

福元健太郎(2004)「国会議員の入場と退場：1947～1990」『選挙研究(19)』

pp. 101-110.

村山祥栄（2013）『地域政党』京都：光村推古書院

吉野孝・今村浩・谷藤悦史（2001）『誰が政治家になるのか——候補者選別の国際比較』東京：早稲田大学出版部

吉田健一・木村高宏・佐藤満（2007）「第2章 政治的配置」村上弘・田尾雅夫・佐藤満編著『京都市政公共経営と政策研究』京都：法律文化社（pp. 43-70）